

## 学校二学期制 Q&A

平成 16 年度から学校二学期制を導入します。その二学期制について Q&A でご説明します。

Q 1 学校二学期制を導入する理由はどうしてですか。

- A : 学校週五日制のもとで、新教育課程が実施されて 2 年が経過します。この 2 年間の教育活動を振り返ると同時に今後の教育課程の充実を図るために、この二学期制を導入します。
- 具体的には次の通りです。
- ・ 約 70 日、約 80 日、約 50 日と細かく区切られた三学期制に比べ、前期・後期ともに約 100 日という長い学期を活用し、ゆとりをもった弾力的な計画のもとで子どもたち一人一人がきめ細やかな指導と評価を受け、余裕をもった学習の取組ができるように工夫・改善に努めたい。
  - ・ 二学期制では、授業日数は変わらないものの、学校の年間教育活動を見直すことで、授業時間を増やすことができ、基礎・基本の確実な定着を図り、確かな学力を身につけることがより一層可能になります。
  - ・ 教育相談や面談活動の充実を図ることにより、学校と家庭の協力関係を一層密にすることができま。
  - ・ 学期制を変更することにより、新たな発想で学校の教育活動の見直しが図られ、各学校の特色づくりが一層推進されます。

Q 2 中学校では、定期テストの回数が減ることで、適切な評価ができるのでしょうか。

- A : 平成 14 年度から導入された「目標に準拠した評価(絶対評価)」では、学習の結果としての定期テストの点数だけでなく、日々の取組の状況や学習のまとめりごとの状況もしっかり把握し、それらを総合して評価することになっていきます。ですから、定期テストの回数が減っても、授業態度の観察、レポートや各種提出物、小テストやドリル学習など、子どもの学習状況をいろいろな観点からしっかりととらえ、指導目標から導き出された評価基準に照らし合わせて、適切に評価することになります。これらの評価活動によって、子どもは、自らの学習の状況を的確に把握することができます。
- なお、本校ではすでに 3 学期制においても 1 学期の中間テストをなくし、年間 4 回の定期テストで実施していますので、定期テストの回数には変更がありません。

Q 3 連絡票の発行回数が減ることで、子どもの学習状況の様子を知る機会が少なくなるのではないのでしょうか。

- A : 連絡票は学期末に出されるため、学校二学期制では、年間 2 回の発行になります。しかし、子どもの学習状況の保護者の方々への連絡は、連絡票だけでなく、個人面談や教育相談、進路相談など、学校で生み出されたゆとりの時間を使って様々な工夫された方法で、きめ細やかに連絡していきます。
- なお、3 年生は従来通りの 3 学期制で成績を出しますので、発行回数の変更はありません。

Q 4 3 年生の進路指導資料(調査書)の作成は、どのようになるのでしょうか。

- A : 学校によっては、前期評定(4 月～ 9 月)に 12 月までの三ヶ月分の成績を付記する方式で対応しますが、本校では、従来通りの三学期制の評定で対応していきます。

Q 5 体育祭や文化祭など、子どもたちが楽しみにしている行事が削られることはないでしょうか。

A : 始業式、終業式などの儀式的な行事の回数は減ります。二学期制という長い期間の中で、生徒がゆとりをもって主体的に行事に取り組むことができるよう目標を見直し、適切な時期や内容の工夫を大切にします。  
なお、本校では従来実施してきた行事に関しては、従来通り実施します。

- ・ 体育祭 9月実施
- ・ 文化祭 10月実施
- ・ コスモス祭 10月実施

Q 6 秋休みができ、一年間の子どもたちの休みが増えるのですか。

A : 従来の夏休みから1日、冬休みから1日少なくした2日間を充てていますので、従来の三学期制と変わりません。年間の総授業時数も変わりません。ただし、長期休業の年間66日間の運用において、弾力的に学校が判断して長期休業を設定することができます。  
なお、本校では7月20日を休業とし、秋休みの1日を授業に振り替えます。

Q 7 従来実施していた面談活動の内容、時期等はどうなるのでしょうか

A : 生徒、保護者とのかかわりを今まで以上に重視し相談活動の充実に心がけていきます。面談の内容も、従来は成績中心の面がありましたが、二学期制においては7月・12月には成績が出ていませんので、普段の学校生活や授業の取組および家庭生活での様子などが中心になるかと思えます。  
ただし、3年生は従来通りの3学期制で成績を出しますので面談内容は変わりません。  
なお、本校では7月(夏休み前)・9月(夏休み終了後)・12月(冬休み前)を考えています。

Q 8 前期の期末テストの時期が夏休み明けとなりますが、生徒の負担になりませんか

A : 従来の夏休みと違って生徒にとっては負担になるかもしれませんが、学校では生徒が充実した夏休みを送るために次のことを考えています。  
・ 夏休みの学習計画に対しての助言をします。  
・ 夏休み前に期末テストの範囲を提示します。  
・ 夏休みの期間に学習相談日を設定します。

Q 9 夏休み中は、生徒への支援を何か学校で考えているのですか

A : 従来実施してきた次の内容を考えております。  
・ 夏休みの期間に学習相談日を設定します。  
・ 学年登校日を1日設定します。  
・ 3年生は進路指導として体験学習を計画します。  
・ 自由研究への取組に対する助言をします。

Q 10 二学期制を実施することにより、どの程度の授業時数の増加になるのでしょうか

A : 平成15年度の試行校によりますと、三学期制に比べて約40時間ほどの授業時数の増加になるとのことです。本校においても、計算の上では年間1072時間確保ができ、学習指導要領の必修授業時数の980時間が確保され、なお残り92時間を行事等に充てることができます。

